

| | | | | | |
|-------|---|---------------|--|--|--|
| 授業科目名 | 観光情報演習 | 担当教員 野津 直樹 | | | |
| 必修の区分 | 選択 | | | | |
| 単位数 | 2 単位 | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | | | | |
| 開講年次 | 3 年 第 3 クオーター | | | | |
| 講義内容 | <p>情報処理技術の発達に伴い、従来では扱いきれなかった様々なデータがビッグデータとして価値を生み出すようになり、それらの一部はオープンデータ化されることによって、社会課題の解決や業務の付加価値向上に役立てられるようになった。</p> <p>近年では地方創生の文脈でも多様なデータの活用が始まり、これまで熟練者の勘と経験則で立案してきたような施策が、意外なデータに基づくひらめきから生み出されたり、あるいはデータを用いて効果検証されたりするようになりつつある。</p> <p>本演習では、観光政策立案分野で活用されているデータの種類を知り、その活用法を実践的に学びながら、データに基づく地域活性化策の立案に挑戦する。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府がオンライン公開する統計情報サイトを知り、自ら操作できる ・公開された観光統計情報を分析し、地域の観光課題を論理的に発見できる ・データに基づく地域活性化策を立案し、効果的にプレゼンテーションできる | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ~ビッグデータによる観光動態分析~ 2. 統計情報利用の意義とデータリテラシー 3. 過去の臨地実習報告を振り返る (データの整理) 4. 過去の臨地実習報告を振り返る (資料の見直し) 5. 臨地実習報告とデータ分析 (1年次第4クオーターについて) 6. 臨地実習報告とデータ分析 (2年次第2クオーターについて) 7. 臨地実習報告とデータ分析 (2年次第4クオーターについて) 8. 臨地実習報告とデータ分析 (3年次第2クオーターについて) 9. Web アンケート結果とクロス集計分析 (概説) 10. Web アンケート結果とクロス集計分析 (実践) 11. Web アンケート結果と複数回答の集計 (概説) 12. Web アンケート結果と複数回答の集計 (実践) 13. 複雑な表計算と関数 (正規表現と i f 文) 14. 複雑な表計算と関数 (絶対参照と相対参照) 15. 日本政府の地方創生政策と観光統計情報 16. 地域経済分析システム (R E S A S) の概要とその活用 | | | | |

| | |
|----------------|--|
| | <p>17. デジタル田園都市国家構想と新しい地方経済・生活環境創生</p> <p>18. デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度指標の活用</p> <p>19. DMOにおける観光情報収集とマーケティング</p> <p>20. 豊岡観光イノベーション（T T I）「リサーチラボ」を読み解く</p> <p>21. 観光統計情報を活用した地域活性化策の検討</p> <p>22. 観光統計情報を活用した地域活性化策の立案</p> <p>23. 観光統計情報を活用した地域活性化提案資料の作成</p> <p>24. 観光統計情報を活用した地域活性化提案の最終発表</p> |
| 事前・事後 学習 | 授業内で紹介したデータ分析手法を活用し、自らの発見をまとめた演習課題を都度指定する期限内に提出すること。（演習課題は全5回を予定） |
| テキスト | 特に指定しない。資料は授業内で必要に応じて適宜配付する。 |
| 参考文献 | 適宜紹介する。 |
| 成績評価 の基準 | 授業中に提示する演習課題の提出（75%：各 15%×全5回）、最終発表（25%）により評価する。 |
| 履修上の注意 履修要件 | 特になし。 これまでに経験してきた臨地実習報告会等における発表内容をベースに、データに基づくプレゼンテーションスキルを向上させたい学生の履修を歓迎する。 |
| 実践的教育 | 観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。 |
| 備考欄 | |